

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立北波多中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・県の「小中連携による学力向上推進地域」の指定2年目となり、小中連携による学力の向上を目標に、指導法改善やICT機器の活用に向けた研究授業やTT授業等に取り組んできた。学習へ向かう姿勢も徐々に意欲的になってきており、学力の高まりとともに自己肯定感も高まりつつある。県学力状況調査において、1年生・2年生ともに教科によって平均点を上回るものもあるが、苦手意識が強く、平均点を下回る教科もあるため、今後も、思考力・判断力・表現力という活用の育成のための教材研究の工夫、学力向上に努めていきたい。</p> <p>・保護者や地域の協力、支援を受けて様々な行事を成功に導くことができた。行事を通して達成感や成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育んでいる。しかし、行事についての事前準備に多くの時間を費やしていることも事実である。今後も業務改善や行事の精選など行いながら勤務時間の適正化を図る必要がある。</p> <p>・生徒会を中心に、平和集会や人権集会等を通して、人権感覚を養い、人を思いやる気持ちや自他を大切にすることを意識を高めていきたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	自他を大切に、互いに認め合い、共に高め合う生徒の育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①一人一人が大切にされる学習づくり</p> <p>②自己指導能力を高める生活づくり</p> <p>③互いのよさを認め合える仲間づくり</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・知識を活用し、生徒の主体的な学びを授業の中に仕組む授業づくり	○生徒による授業評価の項目に「学習したことを使って、問題解決の学習をすることができた」に肯定的な回答をする生徒が80%以上を目指す。	・各教科の特性を生かし、知識を十分に付けさせ、その知識を使ってゴールへ向かう授業の展開を考えた授業づくり ・生徒の学びを促す相互参観・意見交換の実施とアンケートの実施	B	・3学期に実施したアンケート調査で肯定的に回答した生徒は93%と高い。しかし、教師のアンケートからの考察としては、表面的な充実感だけで終わっている生徒が多い。さらに、教師相互参観・意見交換の必要性を感じた。	B	・小中の交流を通して、家庭学習の在り方、宿題の精選等、学力向上のための情報を共有し、ICTの活用も踏まえ努めていってほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○地域の人材や外部講師を活用した体験活動や講話などにより、心情面を育てる。保護者の肯定的な意見80%を目指す。	・「いきいき学ぶからつ子推進事業」と関連させ、地域人材の活用やキャリア講話を各学年の実態に応じて行い、社会性や倫理観を育てる。 ・平和集会とPTA活動の体験活動を連携させ、生命の大切さや他者への思いやりを育てる。	A	・保護者アンケートで「地域の特色や教育力を生かした教育活動を行っていると思う」割合83%以上。多くの生徒の感想に伝統的な文化を残したいと書かれていた。焼き物の由来にも触れ、よい機会となった。 ・平和集会を通して、生命の大切さや他者への思いやりについて感想を書いている生徒が多かった。 ・ボランティア活動に参加した生徒は80%以上で、生徒会を中心に意欲的に活動を行うことができた。	A	・地域人材等を活用し、子どもの実態に応じて社会性や倫理観を培う機会を多く持つことは必要である。 ・生徒会が元気に活動する姿はすばらしい。引き続き、新生徒会にもつなげていってほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートで「学校はいじめのない楽しい学校づくりに努めている」と回答した保護者を80%以上にする。 ○職員研修の充実(校外での個人の研修推奨とSCを活用した授業を2回以上)	・いじめアンケート、生活アンケート、Q-Uを実施し生徒の変化を捉え、年2回教育相談期間を設け生徒一人一人の声を聴く。 ・生徒理解を深めるためのSCによる授業を取り入れ、全職員がいじめ問題対応への共通理解を行う。	A	・「学校はいじめのない楽しい学校づくりに努めている」と回答した保護者が80%で目標の数値であった。今後も、学校がいじめ対応に対して保護者の意見を把握し、気になる生徒への声掛けや、Q-Uの研修会、計画的な教育相談を効果的に活用していく。また、職員全体で情報を共有し、迅速な対応を心がける。	A	・いじめ防止において、保護者や子どもたちの意見をしっかりと聴取し、学校で対応、解決に努めている。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・生徒会本部を中心に、自治活動を増やし、生徒を承認する機会を増やす。(生徒朝会、各行事の実行委員会等) ・学期に1回、生徒朝会の場で生徒の振り返り発表を行ったり、通信等で紹介をするなどその生徒を紹介する場を仕組む。	A	・生徒会本部を中心に、生徒朝会や各行事での自主的な活動が増え、少しずつ自分たちでアイデアを出し、実行し、やり遂げたことで、生徒の自信になっているようだ。また、その結果を通信や放送等で紹介できた。「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒は88%と目標を上回った。 ・立腹放送の時間に、自分の日常や目標について語る時間を設け、全校で共有できた。	A	・様々な行事において、生徒会を中心に取り組み、頑張っている様子がうかがえる。子どもたちのよいところをどんどん見つけ、地域全体でも共有していきたい。
	○生徒のボランティア精神の育成	○ボランティア精神の育成のため、校内の行事・清掃美化活動・ボランティア活動を全生徒1度は経験させる。	・各種団体と連携するとともに、生徒会(ボランティアBANK)が中心となり企画・運営を行い、生徒の自主的な活動にする。 ・生徒の頑張りが地域の人の感謝の声を上げ、生徒の活動意欲や達成感につなげる。 ・メディアの活用を行いボランティア意識の高揚を図る。	A	・校内のボランティア活動においては生徒会が中心となり自主的な活動が展開された結果、たくさんの生徒が参加できた。 ・生徒の頑張りが地域の人の感謝の声を上げ、生徒の活動意欲や達成感につなげることができた。	A	・夏祭り後のごみ拾い、イベント等のサポートなど、積極的に参加する生徒が多いと思う。生徒のボランティアに対する意欲を感じ、子どもたちの活躍の場にもなっている。これからも子どもたちの達成感や自信につなげていってほしい。
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」	○スマホ、ゲーム保有者の使用時間2時間以内/日の割合を70%以上とする。(月～金)	・PTA総会や保護者懇談会、学活等を活用し、スマホの危険性や功罪について話し、保護者にSNSの使用のさせ方・生徒の使用の仕方について考えてもらう。	B	・スマホ等の情報機器は使い方によっては非常に危険なツールとなるため、その使い方については、携帯会社の情報モラル講座を生徒・保護者対象に行うことができた。 ・スマホ、ゲーム保有者の使用時間2時間以内の割合は64%で目標を達成することができなかった。保護者への注意喚起と生徒への呼びかけも継続していきたい。	B	・ネットによるトラブルが多く報じられ危機感を感じる。情報モラル講座や外部の力を借りて生徒への正しい知識と操作、モラルなどの教育はとて大切だと感じる。今後は、スマホを与えている保護者への啓発、管理体制について一緒に考えていく必要があると感じる。
	○体力の向上	○新体力テストにおいて、合計得点が全国平均を上回る。	・めあての設置、個人ノートの活用、活動の場の工夫等により、自ら進んで活動する授業の確立を図り、生徒の体力向上を支援する。 ・部活動加入を勧めるとともに、部活動を計画的に実施したり、体力増進のために活動内容を工夫したりする。	B	・めあての設置、活動の場の工夫等により、自ら進んで活動する授業の確立を図り、生徒の体力向上を支援することができた。日頃の体育の授業の中で体力を高めるトレーニングを常に取り入れ体力の向上に努めることができた。	B	・体育の授業や部活動が体力向上には大きな要素である。今後も、日々の積み重ねから体力の向上につなげてほしい。 ・部活動の存続が厳しい部がある。今後の状況をみて、検討すべきである。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「業務効率化のためにICT機器を活用した」と答える職員の割合を80%以上とする。	・毎月の時間外勤務をチェックし、個人面談を行い超過の原因を明らかにし上限の遵守に努める。 ・会議等でのペーパーレス化を推進する。 ・ICTを活用したアンケートを推奨する。	A	・大半の職員は時間外勤務の上限の遵守ができていたが、大きな学校行事がある月には、上限(45H)を超える職員がいる。業務の分担等が課題である。 ・会議でのペーパーレス化、ICTを活用した授業、校務の効率化に役立てたと回答した職員は85%だった。 ・ICTを活用したアンケートに取り組めた。	A	・時間のゆとりは気持ちのゆとりにつながる。学校・保護者・地域が役割を分担して、その役割を果たしていくことが大切である。今後は業務内容の見直しが必要である。
	○休養日の確保	○毎週水曜日及び土曜日または日曜日のいずれかを100%休養日とする。(試合が土日開催の場合は、翌日以降に必ず休養する)	・毎月の業務記録表を点検し、休養日取得状況を把握し、確実な取得を実践する。	A	・部活動の休養日は、全部活動が確実に取得できている。	A	・生徒の実態に応じた効果的な部活動の在り方を考えていくことは大切である。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上しと回答した教員75%以上を目指す。	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・校内特別支援会議の開催、関係者間での情報共有	B	・小中連携を通して、特別支援教育に関する研修会を2回実施した。専門性が向上したと回答した教員は75%に満たなかった。引き続き、継続していく。 ・校内特別支援会議の開催、関係者間での情報共有ができていない月があったので、改善していく。	B	・生徒の様子をしっかりと把握し、SC外部機関との連携等を通して、成長につなげることが重要であることを再確認した。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○誰一人取り残さない教育活動の充実	○全職員によるアイデアの共有と共通実践 ・人間関係づくりの工夫やUDの視点を入れた環境づくり ・授業や教育活動における課題の確認、実践、振り返り	○生徒によるアンケートの項目に「学校に行くのは楽しいと思う」80%以上を目指す。 ○職員アンケートの項目の中に「学校は、学校教育目標や重点目標に基づいた教育活動ができていると思う」80%以上を目指す。	・職員が「授業づくり部会」と「学級づくり部会」のどちらかに属し、実践力を高めるためのアイデアの共有を行い、実践する。 ・タブレット端末を使って、不登校の生徒や別室学習を行っている生徒へのライブ授業を行う環境作り	B	・人間関係づくりの工夫やUDの視点を入れた環境づくりを全職員で共有できた。生徒によるアンケートの項目「学校に行くのは楽しいと思う」肯定的な意見86%であった。 ・不登校の生徒や別室学習を行っている生徒へのライブ授業を行う環境づくりにチャレンジしているが、上手く進まないことが多かった。 ・職員アンケートの項目「学校は、学校教育目標や重点目標に基づいた教育活動ができていると思う」肯定的な意見85%であった。	A	・地域、保護者と連携しつつ、ともに取組をしていきたい。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・主体的な学びについては、興味・関心がないと難しい。また、小学校時代にもうすでに苦手意識があるとそこからなかなか抜け出せない。したがって、各教科のように学習を進めるべきか、教師側がいかに興味を持たせる授業づくりをするかなどさらに検討していきたい。</p> <p>・保護者や地域の協力、支援を受けて様々な行事を成功に導くことができた。行事を通して達成感や成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育んでいる。今後は業務改善や行事の精選など行いながら勤務時間の適正化を図る必要がある。</p> <p>・生徒会を中心に、平和集会やボランティア活動を通して、人を思いやる気持ちや自他を大切にすることを意識を高めていきたい。</p> <p>・いじめの早期発見、早期対応に対して、気になる生徒への声掛け、保護者の意見を把握、職員の研修会、計画的な教育相談を効果的に活用していく。また、職員全体で情報を共有し、迅速な対応を心がける。</p>
----------------	---